



1636年～1869年(約230年)

伊予西條藩を知る ⑱

(第一次西條藩)一柳家、(第二次西條藩)松平家



第2代西条市長「郷土の偉人・十河(そごう)信二 1884～1981」

明治17年生まれ、旧制西條中学(現在の西条高校)、東京帝国大学を経て鉄道院に任官。昭和30年、71歳の高齢で第4代国鉄総裁に就任し、「夢の超特急東海道新幹線計画」を軌道に乗せ国鉄の再建と近代化に努めた。

総裁辞任後の昭和39年10月1日、東海道新幹線は開業する。

新幹線の生みの親、新幹線の父 と称賛される//



昭和20年4月、八幡浜から宇和島までの鉄道全通式に運輸省から派遣された折、郷里西条市に立ち寄った。ちょうどその頃、西条市長が病気のため辞任し困っていたところに、十河が顔を出したもので地元有力者が市長になってくれと口説かれる。その頃、十河は戦争に対する陸軍の考え方や、やり方について我慢できぬものがあり、批判的意見を述べ、また多少いきすぎと思われるような倒閣運動にも関係していたため、数回にわたって憲兵隊の取調べを受け、家宅捜査も受けていた。友人からは、「また捕まるようなことが起こった場合、一服盛られる危険性が多分にある。だから、なるべく所在を明らかにして他意なきを示し、闇から闇に葬られるようなことの無いよう注意して欲しい」と言われていた。十河は、憲兵隊の事もあって、軍部からいらまれてもいましたので、隠れ蓑をきるつもりで昭和20年7月第2代西条市長になることを承諾した。

しかし、終戦後占領軍の行政方針により、終戦前から市長であった者は、自発的に辞任するか、さもなければ追放ということになりましたので、昭和21年4月西条市長を辞任しました。

僅か1年あまりではあったが十河信二は、「教育」と「食糧増産」の二つに重点をおいて努力しました。

まず第1に、教育の建直し・西条市の教育の基本方針は正直な人、嘘をつかぬ人を作ることが決定された。第2の食糧増産では、海岸を干拓して農耕地を増加しようと計画を立てた。この計画は、市・県の財政では見込みがなかったので、住友の別子鉱業所の工事に工事費後払いで頼みこんだ。

その後、この事業は農林省の直轄事業として進行することとなった。



有法子(ユ-ファ-ズ)

十河信二は、しゅうかいせき 蒋介石らに教えてもらったとても良い言葉と思い、自分の座右の銘にした。

中国語で“為せば成る”“まだ、”方法はある、もっと努力しよう” という意味です。

「ユ-ファ-ズ」の反対語は、「メ-ファ-ズ(没法子)」と言って困難に遭遇するとすぐ諦めてしまうこと。

どうしようもない、仕方がない、手段がつかない、仕方がないという諦めの言葉である。

(参考資料)：西條人物列伝、有法子、愛媛県生涯学習センター、西条市、新居浜市、